



Title	医療技術短期大学部看護学科入学試験の選抜方法の改善に関する研究
Author(s)	宮島, 直子; 川合, 育子; 佐藤, 洋子 他
Description	短報
Citation	北海道大学医療技術短期大学部紀要, 8, 29-38
Issue Date	1995-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/37598
Type	departmental bulletin paper
File Information	8_29-38.pdf



医療技術短期大学部看護学科入学試験の 選抜方法の改善に関する研究

宮島 直子・川合 育子・佐藤 洋子・村松 幸

An Investigation on the Improvement in the Admission to the Department of Nursing, College of Medical Technology

Naoko Miyajima, Ikuko Kawai, Yoko Sato and Tsukasa Muramatsu

Abstract

The arrival of aging society has changed illness construction greatly and needed higher medical care and support with a rise of prevalence ratio. In a medical field, especially in a nursing field, the urgent issue to be solved now is how to recruit excellent students as many as possible. Owing to a falling-birth rate and newly-buildings of nursing universities, it is going to be a little difficult for the National Medical-Care Junior Colleges to secure the certain numbers of recruits. So we think we should study the positive methods to gain good students in quality as well as in quantity. In our investigation, we asked high-school teachers who are in charge of course counseling for questionnaires aiming as below.

- 1) About current entrance examination system
- 2) About adoption of recommendation system
- 3) About methods to admit students
- 4) About contents of course-guidance
- 5) About student's choice motives

As a result of this survey, we know that 42% of all responses from high-schools is for the current entrance-examination system and 68% is acceptable for the change of subjects taken by examinees in 1997. A few schools agreed to the adoption of recommendation system, interview test, or writing short thesis.

On another questions about the evaluation of volunteer activities, special abilities and confidential report, most of schools gave no answers.

We need sufficient time to discuss and examine the influences to students and course-counselors when we adopt another way to admit students without taking recommendation

要 旨

高齢化社会の到来は、従来の疾病構造を大きく変え、有病率の上昇とともに、医療の需要を高めている。そのため医療の分野、特に看護領域において「多数の優秀な人材の確保」ということが、早急に解決されなければならない課題となっている。しかし、出生率の減少と4年制大学への志向が高まっている現状を背景に、国立医療短大は資質の優れた入学者の確保が課題となっている。そこで、資質の優れた入学者の質的、量的確保を目指した入学者選抜方法の積極的改善を検討すべく、本研究にいたった。本研究では、受験生を送り出す側である高等学校の進路指導担当の教員を対象に、以下の項目についてアンケート調査を実施した。

- 1) 現行の入試について
- 2) 推薦入学の採用について
- 3) 入学者選抜方法について
- 4) 進路指導内容について
- 5) 学生の志望動機について

集計と統計的分析の結果、現行の入学試験の印象については42%が妥当であると回答し、平成9年度からの入学試験科目変更に関しても68%が適当と回答している。一方、改善を望む30%の内で改善希望理由の主なものとしては、理科を2科目を受験することの負担をあげている。これは高校の進路別カリキュラムの影響によるものと考えられた。推薦入学や面接、小論文の採用については、学校のランク別にみて回答に差異が認められ、ランクの低い学校で賛成する傾向がみられた。その他の選抜方法として考えられる、ボランティア経験、特技、内申書重視などについては、未回答が多かった。

推薦入学や学力試験以外の入学試験選抜方法の採用については、学校格差や受験生や高等学校の進路指導への影響を十分に検討する必要があると考えられた。

1. はじめに

医療の高度化に加え、高齢化社会の到来は医療の分野における人材の質的・量的確保という問題を深刻にしている。

特に、看護においては「在宅療養」や「訪問看護」が一般に知られるようになり、その社会的要請が高まっている現状から、それに積極的に応えていくためにも優秀な人材確保は重要な課題である。しかし、ここ数年来出生率の減少と看護系大学の定員増と相まって今後、全国国立医療短大への受験者総数は漸減することが予想される。これは高校生の進学・職業志向と密接に関連したものであるが、受験生の減少と資質の優れた入学者の確保という問題から、医療系短大側に置かれた状況は憂慮される。入学試験倍率や入学試験成績の低下が入学後の教育におおきな影響を及ぼすことも考えられる。

本研究は、看護学科の入学者選抜方法について、受験者側としての高等学校の進路指導担当教員からの意見を聴取し集計処理を行うことにより、現行の入学試験についての課題を明らかにし、入学者選抜方法についての改変の可能性について検討した。

2. 対象と方法

道内の高等学校より54校を選抜し、各学校の進路指導担当者を対象に、当学科における現行の入試と選抜方法に関するアンケート調査を実施した。対象校は、過去5年間に於いて当学科を受験している高等学校を含めた各地域の進学校とした。

アンケート方法は郵送法とし、平成7年3月20日に発送し、平成7年5月14日に回収を終えている。

アンケート内容(資料1参照)は「現行の入試について」「センター試験の採用について」「推薦入学の採用について」「種々の選抜方法の採用について」とした。また、「進路指導内容」

「学生の志望動機」や「学生の医療技術に対するイメージ」についても合わせて調査した。回答方法については選択技法と自由記載法とを併用した。自由記載内容に関しては研究メンバー内で検討を行い、4～7項目に分類して統計学

的処理を行った。

また、アンケートの対象校の中で当科を受験している主要校13校に対しては、面接による聞き取り調査も重ねて行っている。

資料1

アンケート

以下の設問に対して、該当する項目に○印をつけた下さい。特に看護学科についてのご意見をお聞かせ下さい。

1. 当学部の入学試験にセンター試験を採用することを希望しますか。

(1) 希望する。 (2) 希望しない。

2. 入学試験科目についてどのようにお考えですか。

平成9年度より当学科の入学試験科目は別紙のように、英語、国語、数学Ⅰ・Ⅱ、理科(2科目選択)となりますが、それに対してどのようなご意見を持ちですか。その理由についてもご記入ください。

(1) 入試科目として適当である。 (2) 改善を望む。

理由

3. 生徒が当学部を受ける場合の主な志望理由についてお聞かせください。(複数回答可)

(1) 資格をとるため (2) 偏差値に見合うため
(3) 内申書との関係で決める (4) 看護職を希望している
(5) 就職しやすいため (6) 適性を考慮して
(7) その他

4. 当学部の現行の入学試験についてどのような印象をお持ちですか。

5. 生徒は医療技術に対してどのようなイメージを抱いているようですか。
また、どうぞ指導なさっていますか。

6. 推薦入学制度についてどのようにお考えですか。

(1) 賛成 (2) 反対
理由

7. 選抜方法についてのご意見をお聞かせください。

ex. 面接, 小論文, ボランティア経験, 社会人入学枠, 内申書重視, 特技, etc.

8. その他, ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

3. 結 果

〔アンケート結果〕

アンケートの回収は53校、回収率は98%であった。次に項目別に分けて結果を述べる。(表1参照)

(1) 当科の入試について

現行入試の全般的印象については、「妥当」と答えている高校が全体の42%、「ハイレベル」と答えている高校が19%、「スベリどめ」と答

えている高校が9%であった。平成9年度からの入学試験科目の変更に関しては、適当と答えている高校は68%、改善を望む高校が30%と約7割の高校が適当ととらえていた。適当であるという理由においては、「国立理系として適当」「高校の学習内容からみて適当」「学科の性格上必要」「受験科目が他校と揃う方がよい」があげられる。

改善を望む内容については「理科2科目は負担」または「科目数を少なくして欲しい」が圧

表1 入学試験選抜方法についての調査結果

質問NO	項 目	校 数	結 果
Q 1	1. 希望する	24	45.3%
	2. 希望しない	28	52.8%
Q 2	1. 適当	36	67.0%
	2. 改善	16	30.2%
※適当理由	1. 国立理系として適当	3	5.7%
	2. 高校の学習内容からみて	1	1.9%
	3. 学科の性格上必要	6	11.3%
	4. 受験科目が他校と揃う方がよい	4	7.5%
	5. その他	3	5.7%
※改善理由	1. 理科2科目は負担	7	13.2%
	2. 科目数少なく	6	11.3%
	3. 範囲を広げる	1	1.9%
	4. その他	1	1.9%
Q 3	1. 資格をとるため	33	62.3%
	2. 偏差値に見合うため	10	18.9%
	3. 内申書との関係で決める	1	1.9%
	4. 看護職を希望している	45	84.9%
	5. 就職しやすいため	19	35.8%
	6. 適性を考慮して	14	26.4%
	7. その他	1	1.9%
Q 4 ※	1. 妥当	22	41.5%
	2. ハイレベル	10	18.9%
	3. 日程が早い	3	5.7%
	4. スベリどめ	5	9.4%
	5. その他	4	7.5%
Q 5 ※イメージ	1. やりがいがある	10	18.9%
	2. 就職に有利	12	22.6%
	3. 資格がとれる	6	11.3%
	4. 社会貢献	9	17.0%
	5. 関心がある	5	9.4%
	6. 漠然	4	7.5%
	7. その他	5	9.4%

※の項目は、自由記載内容を分類したもの。

数値は全回答に対する割合を示した。

(N=53)

質問NO	項 目	校 数	結 果
Q 5 ※指導	1. 適性重視	8	15.1%
	2. 将来性重視	2	3.8%
	3. 職業観	14	26.4%
	4. レベルの高い教育	5	9.4%
	5. その他	7	13.2%
Q 6	1. 賛成	36	67.9%
	2. 反対	14	26.4%
※賛成理由	1. 適性重視	6	11.3%
	2. 人間性	10	18.9%
	3. やる気	7	13.2%
	4. 学力重視否定	14	26.4%
	5. 地方高校生にチャンス	4	7.5%
	6. その他	7	13.2%
※反対理由	1. 混乱を避ける	3	5.7%
	2. 学校差	3	5.7%
	3. やる気なくなる	2	3.8%
	4. 基準が不明確	3	5.7%
	5. 青田刈り	2	3.8%
	6. その他	2	3.8%
Q 7	選抜方法	賛成	反対
	1. 面接	56.6%	5.7%
	2. 小論文	43.4%	7.5%
	3. ボランティア経験	15.1%	11.3%
	4. 社会人入学枠	17.0%	3.8%
	5. 内申書重視	26.4%	7.5%
	6. 特技	5.7%	3.8%
※賛成理由	1. 適性	5	9.4%
	2. 人間性	8	15.1%
	3. やる気	4	7.5%
	4. 学力重視否定	3	5.7%
	5. 多様性	1	1.9%
	6. その他	1	1.9%
※反対理由	1. 客観性がない	1	1.9%
	2. 不平等	1	1.9%
	3. その他	1	1.9%

倒的に多く、87%を占めている。少数であるが(1件)「範囲を広げて欲しい」という回答もあった。

(2) センター試験の採用について

センター試験の採用に賛成の高校は45%、反対の高校は53%と大きく別れている。

(3) 推薦入学制度の採用について

推薦入学制度の採用について賛成する高校が68%、反対する高校が26%であった。賛成理由としては、学力重視の否定が最も多く、賛成者の39%を占めていた。次いで人間性や適性の重視があげられる。

反対理由の主なものとしては「基準が不明確」「混乱を避ける」「学校差がでる」があげられる。少数であるが「受験生のやる気なくなる」「青田刈りになる」という回答もあった。

(4) 選抜方法について

各選抜方法に賛成する高校は、面接では57%、小論文では43%と多いが、内申書重視については26%、社会人入学枠17%、ボランティア15%、特技については8%と少ない。

賛成理由については、「人間性または適性の重視」が25%「やる気を重視する」が8%「学力重視否定」が6%であった。反対理由については「客観性がない」「不平等である」が各1件づつあげられていたのみで、未回答が98%と圧倒的多数を占めていた。

(5) 生徒の志望動機について(図1参照)

「看護職を希望している」が圧倒的多数を占めており、全回答校の85%であった。

次いで「資格をとるため」が62%、「就職しやすいため」が36%、「適性を考慮して」が26%、「偏差値に見合うため」が20%、「内申書との関係で決める」が2%であった。その他として「高度な医療技術を身につけられるため」という回答もあった。(1件)

(6) 生徒の医療技術に対するイメージについて

「就職に有利である」が最も多く23%、次いで「やりがいがある」が19%、「社会貢献」が17

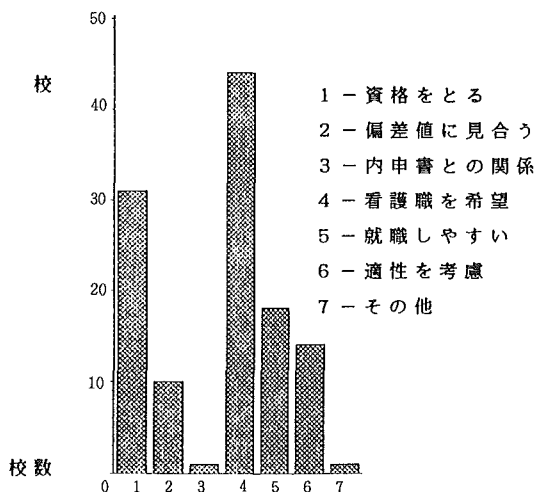


図1 当学科受験志望動機(複数回答)

%, 他は10%前後であった。

(7) 進路指導内容について(図2参照)

「職業観を伝えている」が最も多く26%であった。次いで「適性重視」が15%、「レベルの高い教育を進めている」が9%、「将来性重視」は4%であった。

その他の内容として「家庭学習・講習のガイダンスを受けさせる」「しっかり目標を定め、信念を持って努力するよう指導している」など受験の心構えや受け方についての指導があげられる。

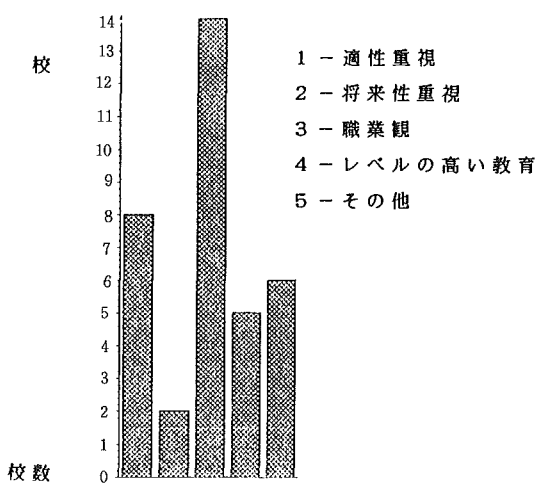


図2 進路指導内容

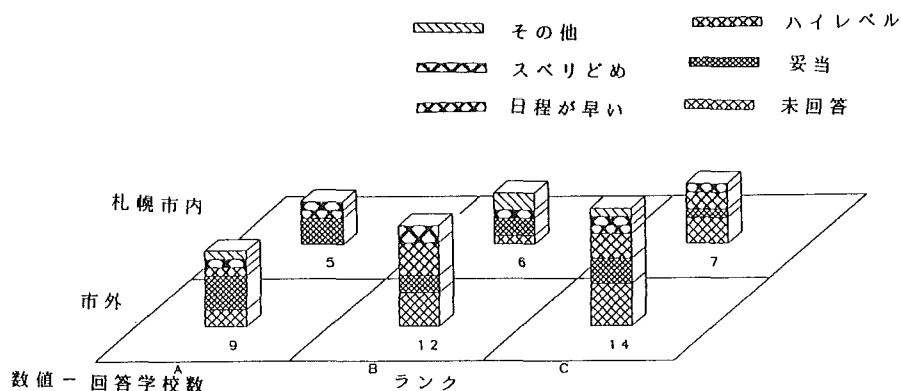


図3 現行入試の印象 (地域・ランク別)

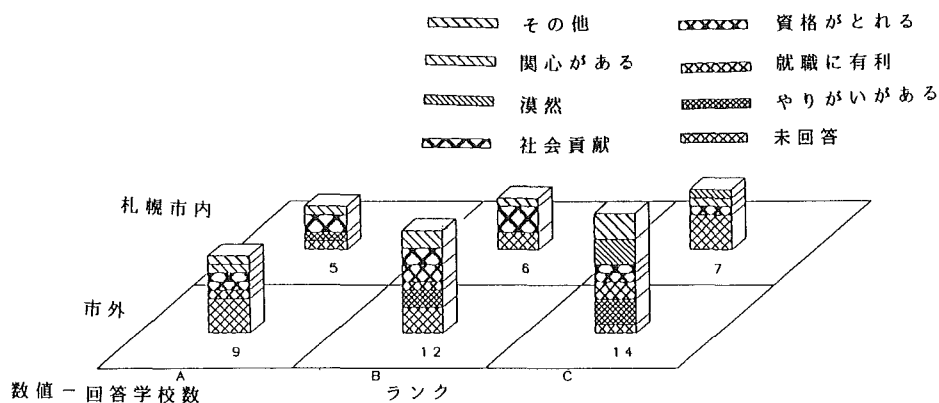


図4 医療技術に対する生徒のイメージ (地域・ランク別)

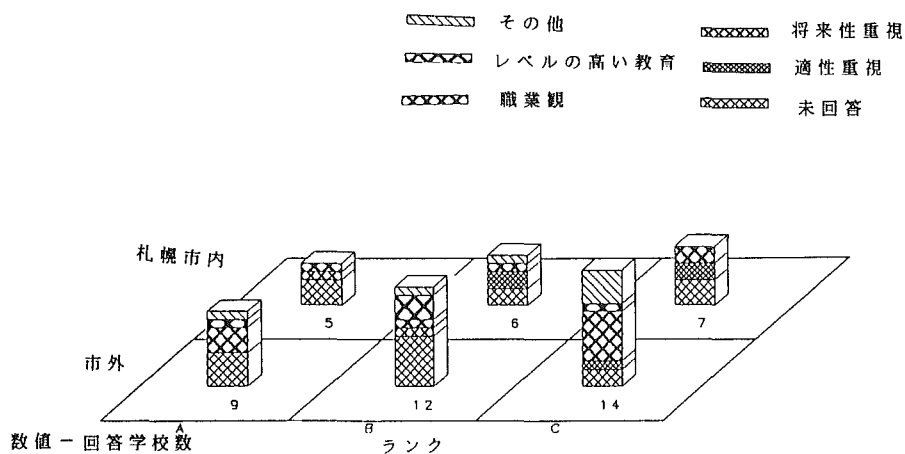


図5 進路指導内容 (地域・ランク別)

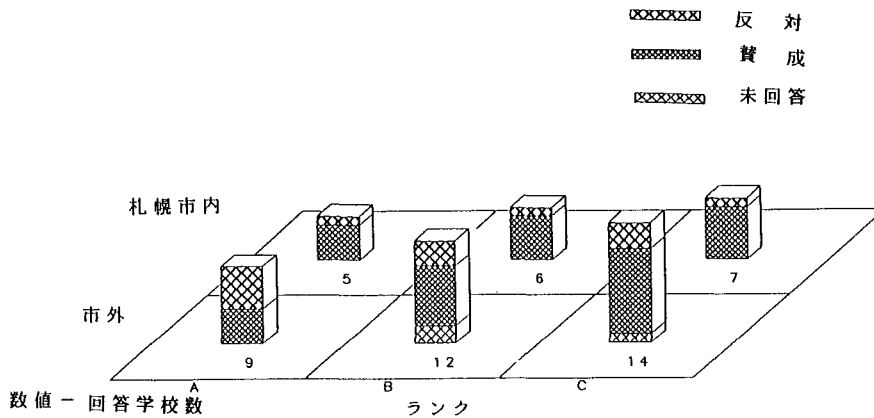


図6 推薦入学制度導入に関して（地域・ランク別）

以上述べた結果の中で「現行入試の印象」「医療技術に対する生徒のイメージ」「進路指導内容」「推薦入学制度導入」について地域別・ランク別に比較した。（図3，図4，図5，図6参照）

推薦入学制度導入に関しては，市外のCランクに賛成の回答が多く同じく市外のAランクには反対の回答が多くみられている。このことは，推薦入学制度がCランクの学校に有利なことからの当然の結果であると考えられる。

現行入試の印象については，市外のA・B・Cランクと市内のCランクにおいて「ハイレベル」という回答が得られている。

次に，当科の入試方法や印象，推薦入学制度について学校のランク別，地域別（札幌市内と市外），進路指導の内容別のそれぞれについて χ^2 検定を行った。なお学校のランクについては偏差値を基にA，B，Cの3段階に分けた。（表2-1，表2-2参照）

結果として，高校のランク別では，推薦入学の反対理由である「学校差がある」と選抜方法の「小論文の採用の是非」についての項目間に危険率5%以下で有意差を認めた。推薦入学の反対理由である「学校差がある」については，Aランクに認め，B・Cランクでは認められなかった。選抜方法の「小論文の採用の是非」に

表2-1 項目間の関連性（ランク別・地域別）

項 目	ランク別	地 域 別
志望理由		
1. 資格をとるため	N.S	N.S
2. 偏差値に見合う	N.S	*
3. 内申書との関係	N.S	N.S
4. 看護職希望	N.S	N.S
5. 就職しやすいため	N.S	N.S
6. 適性を考慮して	N.S	N.S
7. その他	N.S	N.S
選抜方法		
1. 面接	N.S	N.S
2. 小論文	*	N.S
3. ボランティア経験	N.S	N.S
4. 社会人入学枠	N.S	N.S
5. 内申書重視	N.S	N.S
6. 特技	N.S	N.S
7. その他	N.S	N.S
推薦入学の是非	N.S	N.S
推薦入学の賛成理由		
1. 適性重視	N.S	N.S
2. 人間性重視	N.S	N.S
3. やる気	N.S	N.S
4. 学力重視否定	N.S	N.S
5. 地方高校生にチャンス	N.S	N.S
6. その他	N.S	*
推薦入学反対理由		
1. 混乱を避ける	N.S	N.S
2. 学校差	*	N.S
3. やる気が無くなる	N.S	N.S
4. 基準が不明確	N.S	N.S
5. 青田刈り	N.S	N.S
6. その他	N.S	N.S

N.S : Not Significant

* : $P < 0.05$ ** : $P < 0.01$

表 2-2 項目間の関連性（指導内容別）

項 目	指 導 内 容 別				
	適性重視	将来性－	職 業 観	レベル－	そ の 他
推薦入学の是非	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
推薦入学賛成理由					
1. 適性重視	N.S	N.S	N.S	*	N.S
2. 人間性重視	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
3. やる気	N.S	N.S	*	N.S	N.S
4. 学力重視否定	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
5. 地方高校生にチャンス	N.S	*	N.S	N.S	N.S
6. その他	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
推薦入学反対理由					
1. 混乱を避ける	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
2. 学校差	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
3. やる気が無くなる	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
4. 基準が不明確	N.S	N.S	N.S	**	N.S
5. 青田刈り	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
6. その他	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S

N.S : Not Significant

* : $p < 0.05$ ** : $p < 0.01$

については、Cランクにおいて回答が多かった。進路指導内容別では、推薦入学制度の採用に対して、「レベルの高い教育」と「推薦入学採用の是非」、「レベルの高い教育」と「基準が不明確」、「職業観」と「やる気」、「将来性重視」と「地域高校生にチャンス」のそれぞれについて、危険率5%以下で有意差を認めた。「レベルの高い教育」と「推薦入学制度採用の是非」については、「レベルの高い教育」に対して未回答の高校に推薦入学採用の賛成者が多かった。「レベルの高い教育」と「基準が不明確」については、「レベルの高い教育」に対して未回答の高校に「基準が不明確」の者が89%と圧倒的多数を占めていた。「職業観」と「やる気を重視する」については、「職業観」に対して未回答の高校に「やる気」に対して未回答の高校が多数を占めていた。生徒のイメージに関しては「将来性重視」と「関心」について危険率5%以下で有意差を認めた。「将来性重視」に対して、未回答である高校では「関心」について未回答であることが多かった。地域別にみると、

志望動機では「偏差値に見合う」と「適性を考慮して」との間に危険率5%以下で有意差を認めた。志望動機の「偏差値に見合う」においては札幌市外において多く見られた。推薦入学の賛成理由の「適性を考慮して」については、市外の高校において未回答が多かった。

〔聞き取り調査〕

4年制志向が強くなってきているというのは大方共通した見解である。その背景には女性の高学歴化や看護職の学歴社会化が考えられている。また、保健婦の免許取得が可能という理由で母親が勧めているという現状もみられるようである。看護職への志望状況については、3K、5Kという風潮により敬遠傾向になってきたというのは少数校の意見であり、大方は増加傾向であるととらえている。志望動機としては、就職に有利な点や免許が取得できることがあげられている。また、マスメディアによる好影響も考えられる。

推薦入学に関しては、賛成意見と反対意見に

大きく分かれるが、いずれの立場にしても「不合格になった場合に生徒の精神的落ち込みが強い」「不合格になった場合に時期的なこともあり、他の受験の準備をすることが困難である」「合格が決まると気が抜けてその後の学習意欲が著しく低下するので、何か課題でも出して欲しい」など、現場での悩みが聞かれた。

4. 考 察

1) 当科の入試方法について

当科における現行の入試は、選抜方法の区分としては一般入試であり、学力検査等の教科・科目については、国語（1・2）、数学（1）、理科（物理、化学、生物から1科目選択）および外国語（英語）である。平成9年度より国語（1・2）、数学（1・2・A・B）、理科（物理B・物理2、化学B・2、生物B・2）から2科目選択、外国語（英語1・2）に変更する予定である。

平成9年度からの入学試験科目の変更に関するアンケート結果として、約7割が妥当であると回答しているが、改善を希望する内容として科目数を減らすことがあげられており、特に理科2科目が負担であるという意見があった。これは大方の高校においては、進路別にクラス編成をしているが当科の入試科目はいわゆる文系と理系の中間に位置付けられるためと考えられる。

つまり、いわゆる文系のコースでは、理科の学習の補充が必要となり、いわゆる理系では受験には不要となる高度な数学の学習が課せられることになる。このような場合に対して、時間外に生徒への指導をするなど苦慮している学校もあった。

当科を受験する生徒は、大きく4年制大学を併願している場合と、看護学校を併願している場合が考えられるが、特に看護学校を併願している場合に理科の科目数と数学の範囲が問題となるようである。

2) 当科の入試の改善について

推薦入学制度の導入については、賛成する者が多かったが、反対としては「学校差がある」という理由でAランクの学校にみられた。推薦入学制度は、ランクの低い学校において門戸が広がることは否定できない。ただし、他の反対理由として、生徒の意欲低下ということも上げられている。聞き取り調査においても、現実として推薦入学の対象となった生徒の学習意欲が著しく減退する場合があることや、推薦入学で不合格となった生徒の精神的または他校受験に対するフォローが困難であることが複数校よりあげられている。推薦入学制度の導入については、更に入学後の学習評価なども踏まえた検討が必要と考える。

選抜方法としての、面接と小論文については約半数が賛成しているが、他の方法については積極的支持があるとはいえない。

それぞれの選抜方法の反対理由としては、客観性がない、不平等が各1件ずつであった。しかし「あまり負担をかけないで欲しい」という切実な記載や聞き取り調査においては面接や小論文が課せられるとそれに向けた対策を学校側で取り組んでいかななくてはならないなどの意見が聞かれており、指導者側としての事情も意見に影響を与えていると考えられる。聞き取り調査において、受験のための特技またはボランティア活動となり本来の意味を失う危険性が大であるという意見があった。受験対策が徹底している現代では、確かに人間性や適性を重視する選抜方法となるのか否かの現実的な検討が必要だと考える。

5. ま と め

医療短大の入学試験の改善を考える場合、4年制と併願している生徒を対象とするのか、看護学校を併願している生徒を対象にするのかによって、そのアプローチの仕方が変わってくるので、まずどちらの対象に重点を置くのかを決

定する必要がある。

推薦入学制度の採用については、高校のランクが低い高校にとって門戸が広がることになり、学力重視の否定、人間性・適性の重視につながっていくと考えられるが、推薦入学制度自体による生徒への弊害をも十分検討し、条件を工夫するなど更なる検討が必要である。

進路指導においては、看護婦になりたいという生徒の希望を優先させているということであった。その生徒の看護婦になりたいという希望と進路指導内容との関係については、今回の結果からは明らかにはなっていない。しかし、進路指導担当の教員の指導が生徒の医療技術または看護へのイメージ化、更には希望に影響を与えることは容易に推測される。そこで今後、入学試験制度や選抜方法以外に医療技術や看護に対して良いイメージをアピールできる方法の検討も課題としてあげられよう。

(付)

本調査は、平成7年度短期大学入学者選抜改善方法研究費(文部省)の給付を得て行われたものである。

(謝 辞)

本研究を行う機会を与えて下さいました齋藤玲前部長、三浦敏明入学試験改善部長に感謝申し上げます。

また、面談による聞き取り調査やアンケートにご回答くださいました道内高等学校の進路担当の教員の皆様に心から感謝致します。

<参考文献>

- 1) 山口瑞穂子：本学における入試の現状と問題点、看護教育，31(12)，758-764，1990.
- 2) 大宮司信，丸谷隆明，末永義圓他：作業療学科における入学者選抜方法の現状と課題—全国国立医療技術短期大学部作業療学科へのアンケート調査から，北海道大学医療技術短期大学部紀要，

NO. 6，1993.

- 3) 清野喜久美，良村貞子，平塚志保：専攻科助産学特別専攻における入学者選抜方法の現状と課題 — 全国国立医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻と北海道内の3年制看護学校へのアンケート調査から，北海道大学医療技術短期大学部紀要，NO. 7，1994.